

- 1 変形労働制を利用し、春休み7日、冬休み11日、夏休み19日の学校閉庁日「家族サービス健康推進休暇」を設けた(年間143日休み、指定年休を加えれば148日が休み)。月水の研究日を10時間勤務に。
○春休みは早めに次年度分掌を告げたため、計画的な春休みを過ごせたと好評。
- 2 積極的リフレッシュ年休取得運動による意識改革を図った。遊び脳を働かせ「家族と自分へのご褒美を」。
(1)帰れるときは、1時間年休を取りお楽しみを
(2)R元年度より、「計画的育メン年休」を新設:指定の曜日に朝1Hの年休を取り保育所の送迎が可に、管理職が該当学級の朝の活動に入る。
○年休取得回数はH26は全教員で61回、H29年度は96回、H30年度は136回、R元年度は12月末ですでに196回と記録更新中。
○家族で映画を見に行けた。つりに行った。まつりの太鼓台に参加した。こどもと遊べた。年老いた両親と過ごせた。家族からも夫が保育所の送迎をしてくれてありがたい。等の声
- 3 サポートスタッフ例:1日6時間勤務講師(15時退庁)に学期末の成績処理が忙しい期間に、丸付けサポートを15時から17時まで依頼した(時給制:後援会より支出)。R元年度は理科実験サポートにも拡張した。
○登下校指導は保護者に頼めるが、丸付けは保護者に頼めないで助かった。成績処理がたくさんあるので助かった。実験準備や片付けがはやく終わった。
- 4 登下校指導の保護者協力:「JR親の会」の毎日のプラットホームパトロール
PTAの朝の交通立哨。一斉メールシステムで全家庭と全教員に状況報告。
パトロールベストも全家庭に配布。
○朝の職員の立哨当番とJRの下校指導が大幅に減り、ゆとりができた。
○立哨記録やパトロールベストの配布・回収・整理業務がなくなった。
メールの方が早く保護者に伝わり家庭からの指導が効果的。
- 5 部分的ペーパーレス会議の実施:データサーバーに「〇月〇日職員会」というフォルダーをつかっておき、提案者がその中にPDF資料を入れておく。それぞれがPCの画面を見ながら会議を進める。
○印刷する手間が省ける。ファイルしなくてもサーバにアクセスすればいつでも見られる。
○印刷コストの大幅削減に。
- 6 保護者による学習支援(家庭科の実習、外国語)や読み聞かせ:年度始めに募集し、一斉メールで日時や支援内容を知らせる。
○たくさんの保護者が参加してくださって助かっている。支援の質も高く、子供も大喜びである。(家庭科支援:年間約100時間、延べ約250人、外国語支援:年間約180時間、延べ360人)
○保護者からも、「子供の成長に感心した。」「自分自身も英語の勉強をしてみたくなった」「来るのが楽しい」等の感想が聞かれた。
○昼休みをゆっくり過ごせたり、新しい本を紹介してくれたりしているためおだやかに過ごせている。(月3回、内1回はALTの英語読み聞かせ)
○R元年度からはスタートカリキュラムの支援(スマイルママーズ)とインターンシップ型実習(学生の活用)を追加。
- 7 実質業務の削減
 - ・入試業務の半減(PC活用と問題作成と運営の工夫)→大幅時間減に
 - ・期末テストの廃止、夏休み6年カルテの縮小→大幅時間減に(苦情なし)
 - ・通知表と指導要録の合体(文科省の通知が出したい実施予定)
 - ・研究会隔年開催による2年スパンの研究に
→日常の研究授業・討議やワークショップを公開していることから公立校からも好評。大幅時間減に。
 - ・研究部システムの改革(部内一斉主義から部長、副部長のトロイカ体制強化へ)
→まだまだ合理化効率化が図れる(改革途中)。
 - ・教育実習の時間制(18時退庁)とインターンシップ型実習(実習期間前後の時期を活用したOJT)の導入
→効果の収集とシステムとしての発信。
 - ・10月最終の木金を休日にして附属型コミュニティを活用した分散型連休のモデル提供
→約7割の保護者が賛同
 - ・対面会議とメール会議の併用による大幅会議時間の短縮→慣れれば大幅に効果あり(改革途中)



JR親の会によるパトロール



ひなたぼっこテラスでの読み聞かせ

- ・研究集会の時間制限の導入(授業前協議60分, 授業後討議90分)
→研究集会はすべて勤務時間内に収まっている。
- ・留守番電話設置による電話対応の時間削減
→大幅に効果有り(苦情なし)

8 管理職の労働基準監督署主催の研修会への参加(8/5)と職員研修による意識改革

- ・教育基本法「崇高な使命と絶えず研鑽に励む義務」と改正労働基準法の主旨「健幸一番」について
- ・労働基準監督署が認める自己研鑽(①個人から依頼された寄稿文②他校の研究集会参加③書物を読む④同好会。但し, 健康を害する場合は指導が入る。)
- ・附坂小の働き方モデルの提示と①実施予告(6月)②試行・練習(7月から)③実施(10月)。④完成(12月)

9 実在校時間の現認と指導

- ・特支の知を活かした「退庁時刻記入シート」の活用(12月まで, 1月から勤務記録簿に一本化)と防犯カメラ管理人「AIあいちゃん」(子供の安全と教員の健幸をサポートするキャラクター)の設定。
- ・あいちゃんからのメールメッセージに合わせて時短ハラスメントにならないよう指導。

<特支の知を活用した附坂小体験研修用>
はよ帰る練習シート(7月の共通目標: 研究日22時, 通常日20時, 45時間の月)

名前()

めあて 家で子供と晩ごはん食べる

1週	勤務終了時刻	退庁時刻	オーバー分	3週	勤務終了時刻	退庁時刻	オーバー分
7/1 月	19:15	21:30	2:15	7/15 月	19:15	海の日	0
7/2 火	16:45	18:00	1:15	7/16 火	16:45	20:00	3:15
7/3 水	19:15	20:00	45	7/17 水	19:15	18:00	-1:15
7/4 木	16:45	21:00	4:00	7/18 木	16:45	17:00	15
7/5 金	16:45	21:00	4:00	7/19 金	16:45	17:00	15
小計			12:15	小計			7:20
ごほうびシール(15h以内)				ごほうびシール(12h以内)			

2週	勤務終了時刻	退庁時刻	オーバー分	4週	勤務終了時刻	退庁時刻	オーバー分
7/8 月	19:15	20:00	45	7/22 月	16:45	12:00	0
7/9 火	16:45	18:00	1:15	7/23 火	16:45	12:00	0
7/10 水	19:15	17:00	-1:15	7/24 水	16:45	16:45	0
7/11 木	16:45	18:00	1:15	7/25 木	16:45	16:45	0
7/12 金	16:45	19:00	2:15	7/26 金	16:45	17:30	45
小計			4:45	小計			45
ごほうびシール(15h以内)				ごほうびシール(3h以内)			
月合計	21:15			7/29 月	16:45	16:45	0

振り返り 夏休みは、50匹ノーズ(鱈)を釣りたい

<特支の知>
 ・予告を繰り返し行い, シートにより全体の見直しをもたせす。
 ・できるようになったら, どんないいことがあるか伝えます(ごほうびではなく自分の生活で)。
 ・無理のないめあてを子供とともに考え, スモールステップで進めます。
 ・子供にシートに書かせることで意識化を継続させます。
 ・できたときは, 例えはごほうびシールで強化します。
 ・できなかったときは, どうすればできるか一緒に考えます

先生方へ

昨日 11/7 (木) は最終退庁の先生が8時45分でした。警備保障の人も9時にはすべて完了していました。これまでの附属では考えられないことです。皆さんの意識改革が進んでいることをお知らせします。ぐっすり睡眠をとって, 気持ちのよい朝の目覚め, 子供との出会い, 健幸一番でいきましょう。

あいちゃんより

先生方へ

昨日, 11/13 (水) の研究日も, 完全退庁時刻は10時でした。附小フェスタの準備等, 忙しい中, 計画的に進めていることとてもすばらしいです。

これから研究授業を控えている先生方, 頭の中は研究授業でいっぱいになりますが, 授業前日は早めに帰って, ぐっすり睡眠をとるようにしましょう。良質な睡眠は脳をクリアーにしてくれ, 子供の素直な反応をうまく活かせる授業ができるでしょう。

健幸一番のあいちゃんより

先生方へ

今日は懇談会お疲れさまでした。子供の伸びや気質を保護者とともに喜び合うことは, 何よりも子供に返っていくことなんですね。

昨日(12/19)も全員, 20時発のあずさ2号に間に合いました。素晴らしいです。

あいちゃんのワンポイント研修

労基法では, 労働者の心身の健康を守るため, 添付資料のように産業医と衛生委員会を置き, 気軽に労働者が健康相談を受けられるように定めています。

香川大学でも同様ですので, お知りおきください。

調子が悪いなあと思ったら早めに管理職に相談ください。

あいちゃんより

健幸サポートキャラクターからのメールメッセージ(一部)

特支の知を活用した体験研修シート(7月A教諭の例)

10 労働基準監督署より指導があった8月以降の在校時間の推移(全教員の平均値)からの効果の検証

* 在校時間オーバー数は自己研鑽の時間を含む

月(上限時数)	8月(45H)	9月(80H)	10月(80H)	11月(80H)	12月(45H)
在校時間オーバー分	9.8H	61.9H 教育実習	49.6H	34.6H	23.5H

11 教職員への調査からの効果の検証

(1) 教員健康診断の結果向上(昨年度要観察, 要精査7名の内6名が改善)

(2) 「体や心によいことを何かしていますか」肯定的回答88%(昨年度50%)

(3) 附坂小の「働き方改革」はよかったですか。(はい 4 ——— 3 ——— 2 ——— 1 いいえ)
100%(17名)の教員が「はい」の強い肯定的回答。

(4)理由(自由記述)より効果の分析

<意識改革>

- ・附属に来た時、「12時は過ぎないように」と言われたことを覚えている。附属である以上、早く帰ることは難しいと思っていたが、「できるできない」ではなく、「しようとするかしないか」なのだと思った。
- ・早く帰る＝仕事をしていない、という意識から解放された。自分で時間を調整しながら、計画的に仕事をこなせるようになってきている。また、子供の立場から本当に必要かどうか、学校全体を考えるようになった。
- ・計画的に、効率的に仕事をする意識が高まった。
- ・効率のよい校務の仕方や軽重について考える機会となり、現在の仕事内容についての見直しにつながった。

<責任感と見通し>

- ・本校の働き方改革は、自分の仕事に見通しをもつことで、自分のリズムで仕事を進めていくことができる。全職員が自覚と責任感をもって働いているからこそ、改革されていると感じる。

<理解と雰囲気>

- ・休みの取得や早く帰ることについて、職場の管理職、同僚の理解が深いことが大きい。むしろ、早く帰ることを称賛してくれる雰囲気が本当にありがたい。

<遊び脳の有効活用>

- ・職員全体の動きを見ても、この時間までに、という意識からか、メリハリのある仕事ができているように感じる。会話をして上手に息抜きを入れながらも、やるべきことを時間内に終わらせている様子が見られる。

<効果の実感>

- ・思い切って、行事や学校の取組を削減することで、教員のゆとりができ、子供に還元できていると実感している。教室にいる時間が増えたり、教材研究にじっくり取り組んだりできている。
- ・以前と比べて格段に早く帰れるようになって、両親も喜んでいます。ありがとうございます。
- ・早く帰ることができ、家事をしたり会話したりできる時間が増え、家族に笑顔が増えた。
- ・年休が取りやすいので、とてもありがたい。朝の育児リフなどもありがたい。
- ・家族サービスや自己実現の時間が確保でき、有意義に過ごすことができた。
- ・公立校よりも改革が進んでおり驚いた。自分はまだ、送り迎えなどはないが少し上の先輩たちの様子を見ると、自分も年休を上手く活用したいと思う。将来のライフプランが立てやすく、安心して働ける環境だと思う。研究会がある年もお互い様の心でこのような取り組みを続け、働き方改革を進めたい。
- ・研究会隔年開催により、春実践の詰め込みがなく、授業討議と指導案検討の2本立てもなくなり、毎回の研究集会の負担が格段に減った。教育実習の時間が6時までになり負担が減った。

<研修>

- ・管理職の先生方が働き方改革の方法を分かりやすく私たち職員に説明してくださっているおかげで、実行することができていると思う。

<働き方改革の方略>

- ・研究会の隔年実施や親子わくわく連休、あいちゃんからのメッセージ・プレゼントなど、大変嬉しく思う。
- ・退勤の目標時刻を示していただき、はよ帰る練習シートに記述することで、自分の退庁時刻を意識し、計算しながら勤務できるようになった。(〇〇賞が嬉しい)
- ・何より、失敗してしまうと、サポートキャラクターのあいちゃんから、カードとキットカットが机に置かれ、温かいお言葉で励ましていただいたことで、奮い立たされた。
- ・あいちゃんのおかげで、副校長、教頭の現認業務が大幅に縮小された。
- ・メールを使って周知や意見交換を行うことで、会議等での拘束される時間が減り、時間を有効に使えている。メール会議と対面会議のバランスを一層考えていきたい。
- ・勤務も会議も終わりの時刻を決めることにより、それに向けた時間の使い方をプランすることができている。
- ・地域人材活用(附属型コミュニティ)の活用による効果とこれからの見通しが立った。
- ・超勤手当が出るシステムになり、残業するとしても意欲的に取り組めた。

12 働き方改革により自然派生した親和的な効果

心のゆとりから、教職員のアイデアにより自然派生した任意参加のお楽しみ行事を写真で紹介する。



「幼小合同ほかほか焼きそばデー」



「幼小合同スポーツ大会」



「新人歓迎 お花見弁当」



「コーヒーづくり名人校長へのおねだりタイム」



「昼からバーベキューするん会」



「つり名人教員の瀬戸の美味（刺身、たこやき）」



「家族そろって吉本新喜劇爆笑日帰りツアー」



「高知のうまいもの腹一杯ツアー」

(令和元年12月24日現在)